

【揖斐郡の研究主題】

ポストコロナ時代を生き抜く力をもった児童生徒の育成
～郡三師会と学校の連携による健康づくりを通して～

1 主題設定の理由

ポストコロナの時代とは「コロナ後の様々な場面で暮らし方の質が大きく変容し、健康に関する様々な情報を収集活用する力が求められる時代」である。

そうした時代を生き抜くために、厚生労働省の「統合医療に係る情報発信等推進事業」では、健康情報を入手し、活用する「ヘルスリテラシー」の力の重要性が、新学習指導要領（保健体育編）ではヘルスリテラシーの力をもとに「自他の健康に関する課題の解決に向けて主体的に取り組む児童の育成」の必要性が述べられている。

こうしたことを受け、揖斐郡では「ヘルスリテラシーの力」を、「必要な情報を収集する力」、「情報を理解する力」、「情報を活用しようとする意欲」、「情報を活用する力」、「情報を発信する力」の「5つの力」から構成されていると定義するとともに、

ポストコロナ時代を生き抜くためには、「ヘルスリテラシーの5つの力」を活用し主体的に健康づくりに努める力が必要であり、そうした力は「三師会と学校が連携した健康教育」によって育つと考え、研究主題を設定した。

2 揖斐郡として育てたい児童生徒の姿と研究仮説

揖斐郡では研究主題を受け、願う児童生徒の姿と研究仮説を次のように設定した。

<願う児童生徒の姿>

- 自らの健康に関心をもち、健康の維持増進に努めようとする意欲や態度をもって主体的な健康づくりを行うことで、健康な生活を送ることができる児童生徒
- 学校や家庭など集団としての健康づくりにおいて、身の周りの人々に対しても健康の維持増進に向け、働きかけができる児童生徒

<研究仮説>

研究仮説（揖斐郡）

郡三師会と学校が連携して「5つの力」を育てる健康づくりを推進すれば、ポストコロナ時代を生き抜くことのできる児童生徒が育つ。

3 揖斐郡学校保健会の研究主題と研究仮説

以上述べてきた揖斐郡の研究主題の具現や、郡の研究仮説を受けた取組を推進するための中心的な存在となるのが、「揖斐郡学校保健会」である。

「揖斐郡学校保健会」ではそうした役割や取組を明確にするために、「揖斐郡学校保健会としての研究主題との研究仮説」を次のように設定した。

揖斐郡学校保健会 研究主題

郡が一体となって「ポストコロナを生き抜く5つの力」を育てる学校保健活動の推進
～郡学校保健会による郡全体の健康づくりの充実を図るマネジメントや支援を通して～

揖斐郡学校保健会 研究仮説

郡学校保健会が「郡三師会と学校が連携にした5つの力を育てる健康づくり」の充実を図る「マネジメント」や「支援」を行えば、ポストコロナ時代を生き抜く力をもった児童生徒が育つ

4 研究内容

また、揖斐郡学校保健会の役割は次の2点であると考えている。

視点	郡学校保健会の担う役割
I マネジメント	「三師会と学校が連携し5つの力を育てる」ための郡の学校保健の取組の目的・重点・方途を明確にするマネジメント
II 支援	三師会と学校が連携し5つの力を育てる」ための郡学校保健会による事業の実施と各校の学校保健活動への支援

この2視点から次のように研究内容を設定した。

研究内容	研究内容	具体的な支援や取組の概要
研究内容(1) マネジメント	郡の学校保健の取組の目的・重点・方途を明確化するための郡学校保健の全体構想の作成とそれを推進するための広報活動	「揖斐郡の学校保健の全体構想」を作成し、郡としての研究主題、求める児童生徒の姿、学校保健に関わる各部会の役割、学校と三師会の連携の仕方が郡内で共通理解できるようにする。
研究内容(2) 支援	郡三師会と学校が連携して児童生徒の安全を守るための「郡三師会と養護教諭との交流会」	① 養護教諭が健康教育や専門的な知識を身につけることができるよう医療関係者を招いての講演や、日常での指導や実践で生まれる不安や質問に郡三師会がそれぞれの専門的な立場から回答する交流会を実施する。
	揖斐郡内の学校保健関係者の学校保健に関する指導の専門性を高めるための揖斐郡学校保健研修総会での講演	② 広く学校保健関係者が学校保健活動への理解や専門的知識を深め、連携して学校保健活動に取り組む態勢を築くニーズの高いテーマを取り上げた講演を系統的・継続的に実施する。
研究内容(3) 支援	各校で実施されている三師会と学校が連携した実践のデータベース化と優れた実践の紹介	各校で行われている「三師会と学校が連携した学校保健活動の調査を行い、実践の目的・内容・価値を明確にしたデータベースを作成し、他校の取組に学び、自校の取組を高める郡が一体となった指導体制を構築する。

5 研究内容をうけての具体的な実践

(1) 研究内容(1)についての具体的な実践

【研究内容(1)を進めるための仮説】

「郡の学校保健活動の目的・重点・方途を明確にした全体構想」を作成し、全体構想に基づく健康づくりが郡全体で行われるような働きかけを郡学校保健会が行えば、「三師会と学校が連携して5つの力」を育てる学校保健の取組が推進される。

① 揖斐郡の学校保健の全体構想作成の目的

揖斐郡学校保健会では「ポストコロナ時代を生き抜くための5つの力を育てる郡三師会と学校が連携した健康づくり」が充実するためには、郡三師会の先生方、郡内小中学校の教職員、各町の教育委員会及び郡内の学校保健関係者が郡としての研究主題、求める児童生徒の姿、学校保健に関わる各部会の役割、学校と三師会の連携の仕方が郡内で共通理解できるようにすることが必要であると考えた。教育が一目で分かるよう『揖斐郡の学校保健全体構想』を作成した。

揖斐郡の学校保健 全体構想

第1章 揖斐郡の学校保健の全体構想

第2章 研究仮説

第3章 研究内容

第4章 研究仮説

第5章 研究内容

第6章 研究仮説

第7章 研究内容

第8章 研究仮説

第9章 研究内容

第10章 研究仮説

第11章 研究内容

第12章 研究仮説

第13章 研究内容

第14章 研究仮説

第15章 研究内容

第16章 研究仮説

第17章 研究内容

第18章 研究仮説

第19章 研究内容

第20章 研究仮説

第21章 研究内容

第22章 研究仮説

第23章 研究内容

第24章 研究仮説

第25章 研究内容

第26章 研究仮説

第27章 研究内容

第28章 研究仮説

第29章 研究内容

第30章 研究仮説

第31章 研究内容

第32章 研究仮説

第33章 研究内容

第34章 研究仮説

第35章 研究内容

第36章 研究仮説

第37章 研究内容

第38章 研究仮説

第39章 研究内容

第40章 研究仮説

第41章 研究内容

第42章 研究仮説

第43章 研究内容

第44章 研究仮説

第45章 研究内容

第46章 研究仮説

第47章 研究内容

第48章 研究仮説

第49章 研究内容

第50章 研究仮説

第51章 研究内容

第52章 研究仮説

第53章 研究内容

第54章 研究仮説

第55章 研究内容

第56章 研究仮説

第57章 研究内容

第58章 研究仮説

第59章 研究内容

第60章 研究仮説

第61章 研究内容

第62章 研究仮説

第63章 研究内容

第64章 研究仮説

第65章 研究内容

第66章 研究仮説

第67章 研究内容

第68章 研究仮説

第69章 研究内容

第70章 研究仮説

第71章 研究内容

第72章 研究仮説

第73章 研究内容

第74章 研究仮説

第75章 研究内容

第76章 研究仮説

第77章 研究内容

第78章 研究仮説

第79章 研究内容

第80章 研究仮説

第81章 研究内容

第82章 研究仮説

第83章 研究内容

第84章 研究仮説

第85章 研究内容

第86章 研究仮説

第87章 研究内容

第88章 研究仮説

第89章 研究内容

第90章 研究仮説

第91章 研究内容

第92章 研究仮説

第93章 研究内容

第94章 研究仮説

第95章 研究内容

第96章 研究仮説

第97章 研究内容

第98章 研究仮説

第99章 研究内容

第100章 研究仮説

揖斐郡の学校保健の全体構想図は研究発表1~Ⅲの前に掲載
そのために、揖斐郡の学校保健

② 全体構想で作成で大切にしたこと

「揖斐郡の学校保健全体構想」の作成にあたっては次の点を大切にしました。

- 「ポストコロナ時代を生き抜く力」の育成、そのために「三師会と学校の連携した取組」が必要な理由を子どもたちが現在おかれている状況や今後生きていく時代の視点から明確にする。
- 「ヘルスリテラシーに関わる5つの力」が求められる理由を、厚生労働省の『「統合医療」に係る情報発信等推進事業』や新学習指導要領（保健体育編）との関わりで示した上で、それを「揖斐郡としてどうとらえ、具体的な学校保健の取組につなげるか」を明確にする。
- 揖斐郡の研究主題や研究仮説を受け、各部会が求める姿、部会の研究仮説、研究内容、具体的実践の方途を明確にして指導にあたり、成果を検証できるようにする。
- 郡保健主事部会、郡養護教諭部会、郡学校保健会のそれぞれの役割と、つながりを明確に位置づける。
- 揖斐郡の学校保健の成果を広く発信するとともに、郡内で行われる優れた実践に学び合うための方途を位置づける。

③ 今後の郡学校保健会としてのマネジメントの方向

本研究大会に向けて揖斐郡では全体構想図や各研究発表で述べたような様々な取組を行ったが、それを今後の揖斐郡の学校保健教育の向上につなげていくために、郡学校保健会として次のような取組を行っていきたいと考えている。

- ❖ 次年度以降は、今回提示した揖斐郡の学校保健の全体構想を、その年度に郡内の各小中学校で作成される「健康安全全体計画」・「健康指導全体計画」と関連付けながら、「揖斐郡の学校保健全体計画」として揖斐郡学校保健会の事業の一つに位置づけ、学校保健においても「揖斐郡は一つ」の体制を築くようにする。
- ❖ 「揖斐郡の学校保健全体計画」には「三師会と学校との連携の視点」及び郡三師会・郡教育会（郡校長会・郡保健主事部会・郡養護教諭部会等）・郡PTA連合会・揖斐郡学校保健会の取組を位置づけ、第1回の郡学校保健会理事会で検討した後、「揖斐郡学校保健会だより」と「揖斐郡学校保健会HP」を通じて郡内外に発信する。

（2）研究内容（2）－①についての具体的な実践 <郡三師会と養護教諭との交流会>

【研究内容(2) - ①を進めるための仮説】

郡三師会と養護教諭との交流会に、「養護教諭が健康教育や専門的な知識を身に付けることができる講演」や「養護教諭が抱えている疑問や不安を質問して郡三師会が回答する交流会」を位置づければ、日常の指導や実践で抱えている不安や疑問が解決され、養護教諭としての専門性を生かした「ポストコロナ時代を生き抜くための5つの力」を育てる学校保健活動が充実する。

①「郡三師会と養護教諭との交流会」の生まれた背景

揖斐郡ではかつて学校現場において、児童生徒の命が失われるという悲しい事案があった。その事案に揖斐郡学校保健会として真摯に向き合う中で、「三師会と学校が連携して郡の学校保健に関する事業や日常の保健指導や健康教育を行うことの大切さ」が議論され、「郡三師会と養護教諭との交流会」は生まれた。以降、30年以上にわたり、交流会を行っている。

②「三師会と養護教諭との交流会」

交流会では次の取組を行っている。

- (i) 養護教諭が健康教育や専門的な知識を身につけることができる医療関係者を招いての講演
- (ii) 養護教諭の日常での指導や実践で生まれる不安や質問に郡三師会がそれぞれの専門的な立場から回答する交流会

(i) 養護教諭が健康教育や専門的な知識を身につけることができる講演

郡学校保健会では、交流会で郡内の養護教諭が健康教育や保健指導等の専門的な知識を身につけて保健指導にあたることができるよう、毎年三師会を中心とする医療関係者の方を講師に招き、毎年次のテーマで講話を実施している。

(ア) 過去の講演のテーマ

年度	講演テーマ
平成27年度	「食物アレルギーをどう診断し、管理するのか」
平成28年度	「思春期の月経異常」
平成29年度	「成長障害の見方」
平成30年度	「成長期における運動器障害」
令和元年度	「感染症と闘う 克服か共存か」
令和2年度 (中止)	
令和3年度	「学校における新型コロナウイルス感染症と子どもへのワクチン接種について」

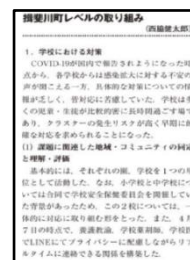
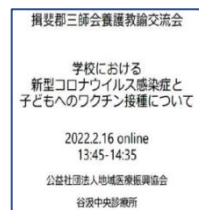
講演にあたっては、その年度の郡学校保健会や養護教諭部会で検討し、養護教諭からのニーズの強いテーマを取り上げ実施している。

特に、令和元年度以降はウイズコロナ、ポストコロナ時代の中で、「感染症とどう闘うのか」、「感染症を克服するのか、共存していくのか」、「新型コロナウイルス感染症や子どもへのワクチン接種に対して学校としてどう対応していけばよいのか」をテーマに講演を行い、養護教諭がコロナウイルス感染症に関わる保健指導に専門的な知識を身につけ、指導にあたることのできるようにした。

(イ) コロナ禍における令和3年度の講演から

□講演の概要

講演では「学校における新型コロナウイルス感染症と子どもへのワクチン接種」の現状について、専門的な立場から、学校としての対策や役割及び小児ワクチン接種への対応についての話があった。
また揖斐川町での取組事例をもとに医療機関と校区の小中学校がどのように連携して、コロナ禍での健康教育や日常の具体的な取組を進めているかの具体例の提示があった。



□講演に対する養護教諭の感想

講演を聞いた養護教諭からは次のような感想が出された。

- ・多くの情報が児童を取り巻いています。児童に正しい情報を伝えることが大切になってくるので、今回のご講話で学んだことや根拠あるデータを基にした正しい情報を伝えていき、少しでも安心感を与えていきたいと思えます。
- ・新型コロナウイルスについての様々な情報が流れる中で、私自身がどの情報を信じて指導や助言をして良いか分からず、不安や困り感がありました。講演で、現在のコロナウイルスの感染状況やその情報源を教えていただき、とても勉強になりました。
- ・日ごろ、疑問に思い調べてはいるもののたくさんの情報があり、何が正しいか不安に思う部分もあったため、今回の講話で不安が取り除かれました。不確かだったことがはっきりすることで、不安が少なくなりました。

こうした感想に見られるように、養護教諭のニーズの高いテーマについて医療関係者の方による講演を実施することが、「養護教諭が健康教育や保健指導等の専門的な知識を身につけ、保健指導に自信をもってあたることのできる」ためのサポートや「ヘルスリテラシー」の視点の獲得につながっていることが分かる。

またそれは講演を通して、揖斐郡として児童生徒に求めている「ポストコロナ時代を生き抜くため

の5つの力」の大切さを養護教諭自身が実感した上で指導にあたることができるという成果にもつながっている。

(ii) 養護教諭の日常での指導や実践で生まれる不安や質問に郡三師会がそれぞれの専門的な立場から回答する交流会

令和元年度からは講演で新型コロナウイルス感染症について取り上げている。

しかし、コロナ禍においてもコロナ感染症以外の病気やけがが発生し、養護教諭が切迫した状況の中でそれに対応しなければならない。そうした時には冷静な判断とともに、養護教諭がそれぞれの事例について確かな専門的知識の裏付けのもと対応することが必要である。

そうした考えに立って郡学校保健会では、講演と併せて養護教諭から出された質問に対して郡三師会の先生方にそれぞれの立場から答えていただく交流会を行っている。

(ア) 養護教諭から出された質問と三師会の先生からの回答

令和3年度の交流会では養護教諭会から次のような疑問が出され、三師会の先生方にご回答いただいた。

□内科の先生に対する質問と回答

尿検査で要精検の時は、保護者に精密検査をうけるように学校から勧めているが保護者は「そのうちに連れて行きます」と言いながら、結局そのままになってしまいます。毎年要精検になるわけではないが、どういう体の状態が考えられますか。

尿糖が陽性の場合、血糖測定が必須です。通常腎臓では、血液中のブドウ糖を、ほぼすべて再吸収しています。しかし、血糖値がおおよそ160mg/dl以上になると、再吸収しきれず、一部が糖として排出されてしまいます。(中略)

ただし、通常の腎性糖尿以外にも、尿細管の以上による血糖正常・尿糖陽性をきたす疾患は存在し、その場合重篤な病気の可能性もありますので、注意は必要です。いずれにしましても、尿糖陽性であれば、血糖検査は必須です。



郡三師会と養護教諭との交流会の様子



□眼科の先生に対する質問と回答

色覚異常の児童が複数いるが黒板や掲示物の色の使い方以外に配慮すべきことは何ですか。

軽度色覚異常ではほとんど支障なく過ごせますが、パネルD-15でフェイルとなる強度異常の場合は必ず色誤認を起こします。そのため、本人は色以外の情報(明るさ、形、大きさ、順序、匂い、感触など)で色の感覚の不足を補う習慣をつけることが大切です。(中略)

児童が葉を茶色に塗っていたら、間違いを指摘するのではなく、色表示を確認しながら一緒に作業をして色の使い方を教えてあげてください。

新型コロナウイルス感染症の蔓延下にあっても、養護教諭は日々学校内で生じる様々な疾病やけが、健康指導に忙殺される。

直面した事例に対して自分なりに調べたり、校内の先生に聞きながら、学校の危機管理マニュアルに沿って精一杯の対応をしようとする。しかしその場合に問題になるのが対応しなければいけない事例に対する専門的な知識の不足である。

それゆえ、医学的根拠にもとづき、現場の状況も踏まえた三師会の先生方の専門的で、的確な誠意ある回答は、「児童生徒の命と健康を守る」という責務を果たす養護教諭に、自信をもって立ち向かう力となっている。

揖斐郡学校保健会では、さらに

- それぞれの養護教諭が交流会で学んだことを知ることで養護教諭としての共通理解を深め、お互いが交流会から学んだことに学び合う。
- 養護教諭が学んだことや不安に思っていたことや疑問に思っていたこと、講演や質問で学んだことを、三師会の先生に知っていただくことで日常の郡三師会と学校との連携に生かす。

ことをねらいに、交流会によって出された感想や学んだことを「揖斐郡学校保健会だより」として発

したり、「揖斐郡学校保健会ホームページ」にアップしたりする支援を行った。

それにより下記の感想が寄せられた。

- ・ 今回の紙面回答いただきましたことや講演の記録などがまとめられて配付されることで必要な時に何度も確認出来る助かります。また、その時その場で三師会の先生方からご回答・ご指導いただく内容も指導に生かしていきたいと思えます。
- ・ 揖斐郡の三師会の先生方は学校教育にも大変協力的な方が多く、今回の会でのご指導を含め、日頃から適切なご指導をいただいております。今後も連絡を取り合い、三師会と学校との連携を密にして指導にあたっていききたいと思えます。

こうした感想に見られるように、「郡三師会と養護教諭との交流会」での講演の内容や質問に対する回答が日々の指導のマニュアルになったり、日常の三師会と学校の連携を強める契機になっている。

そういう意味で、「三師会と養護教諭との交流会」は、「ポストコロナ時代を生き抜く5つの力を育てる学校保健活動の推進のための郡三師会と学校が連携した取組」という揖斐郡の研究主題にの具現に寄与しているといえる。

(3) 研究内容(2) - ②についての具体的な実践 <郡学校保健研修総会での講演>

【研究内容(2) - ②を進めるための仮説】

校長、保健主事、養護教諭、PTA、教育委員会、三師会など幅広い郡内の学校関係者が学校保健活動の理解や専門的知識を深めるための講演を、その時のニーズの高いテーマで行えば、

三師会との連携のもと、学校運営の全体構想、保健主事による学校保健教育のマネジメントやそれを受けた養護教諭や学校教職員、保護者が一体となった学校保健活動が、積極的に推進され、「ポストコロナ時代を生き抜く力」をもった児童生徒の育成につながる。

①郡学校保健研修総会における講演の意義

郡三師会と学校の連携を通してポストコロナ時代を生き抜く力をもった児童生徒の育成を図るためには、「郡三師会と養護教諭との交流会」による養護教諭の専門性の向上だけでは不十分で、学校保健活動の推進に関わる学校関係者全員の啓発が必要である。郡内の学校関係者が、「学校保健指導の重要性を理解し、専門的知識の必要性をもっている必要がある」との考えに立った時に初めて連携が生まれるからである。

また連携は、校長による学校の全体構想への学校保健指導の位置づけ、保健主事による保健指導全体計画や保健・安全指導年間計画の作成などのマネジメント、それを受けた養護教諭の実践や担任教諭による保健安全に関する授業や指導、PTA活動の中への保健や健康に関する行事の位置づけ、教育委員会の支援という形で現れる。

こうした考えに立ち、「揖斐郡学校保健研修総会」の中に「郡で必要とされる必然性の高いテーマによる講演」を位置づけ、郡内の学校保健関係者の専門性や学校保健指導の意欲の向上を図っている。



②郡学校保健研修総会における講演のテーマ

郡学校保健研修総会には郡学校保健会理事、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、校長、保健主事、養護教諭、栄養教諭、学校保健委員会関係職員、各小中学校PTA会長・学校保健委員会関係役員等120名余りが参加し、講演によりその年のテーマについての理解を深めている。

講演のテーマと講師は、その時の郡の学校保健関係者のニーズが高く、もっと詳しく知りたいと思っている必然性の高いテーマを郡学校保健会理事会の場で検討して決定している。

	各年度の揖斐郡学校保健研修総会での講演テーマ
平成27年度	「医薬品の正しい使い方に関する指導状況及びそのポイント」
平成28年度	「子供の皮膚を守る」
平成29年度	「学校歯科保健は子どもの将来を担う」
平成30年度	「日本のたばこと揖斐防煙教室」
令和元年度	「ネット・ゲーム依存から子どもたちを守るには」
令和4年度	「コロナ禍におけるこどもたち ～小児発達外来の現場から～」

④ 郡学校保健研修総会の講演の成果

各年度の講演の感想には「ポストコロナを生き抜く力である「ヘルスリテラシーの5つの力」に関わる理解が深まり、三師会と学校、家庭が連携した取組をしていかなければいけないことに気づいたという感想が多く見られた。

(i) 平成30年度の郡研修総会講演（「日本のたばこと揖斐防煙教室」）の成果

- たばこの害を指導しても、実際には手に入ってしまう現状では、子どもが自分で考え正しく判断できるような情報や知識をきちんとそばにいる保護者が伝えていかななくてはならないという認識が講演を通してPTA関係者に見られた。
- 今、依存に関して様々な情報が飛び交っているが、今回の話を聞いて改めて整理ができ、より確かなものにできたという正しい情報を得ることの大切さに気づいたという声が多かった。

(ii) 令和元年度郡研修総会講演（「ネット・ゲーム依存から子どもたちを守るには」）の成果

- 教師だけでなく保護者も不安を感じ始めているが、この状況に対する情報は余り存在せず、具体的な対応策もがわからずにいた。今回、医療の立場から「ゲームやネットへの依存」を、脳の発達や機能から捉え、依存の状態を正しく理解することができたのは、大きな成果であった。
- 今回の講演で、この問題の深刻さについて共通に認識することができ、更に各学校や家庭での活動につなげていく必要があるという認識が深まった。

このように各年度の郡教育研修総会に参加した郡内の学校関係者の感想を見ると、講演を聞くことであらためて、学校保健指導の重要性を理解し、専門的知識の必要性を感じ取っており、講演が郡学校保健会の取組の向上へつながっているのが分かる。

(iii) 令和4年度揖斐郡教育研修総会(令和4年度は第61回岐阜県学校保健研究大会と併せて実施)

講演 『コロナ禍におけるこどもたち～小児発達外来の現場から～』

- ❖ ポストコロナ時代の現状の把握に立ち、「ポストコロナ時代を生き抜く力をもった児童生徒の育成」の在り方に直接触れていただく講演による成果を郡内に広げ、三師会と学校が連携した健康づくりの充実につなげたい。
- ❖ 郡保健主事部会、養護教諭部会、郡学校保健会による研究発表の成果を、講演の内容と関連付けながら郡内及び広く岐阜県内の学校保健関係者に発信することで、郡内の「ポストコロナを生き抜く児童生徒を育成するためには郡全体としての連携が必要である」という意識を高めるとともに、他地区の学校保健会と連携した取組にもつなげていきたい。

(4) 研究内容(3) 各学校の「郡三師会と学校が連携した学校保健に関する取組」を郡全体で共有するための働きかけ

【研究内容(3)を進めるための仮説】

郡学校保健会が「各校で実践されている三師会と学校が連携した優れた実践や実践のもつ価値を郡全体に広めていく支援を行えば、

他校の優れた実践に学び合い、他校の三師会と連携した学校保健の取組の工夫を自校に取り入れることで、実践の質が高まり、「ポストコロナ時代を生き抜く力」をもった児童生徒の育成につながる。

(1) 「各学校の郡三師会と学校が連携した取組」を郡全体で共有しようとした理由

養護教諭の感想に「揖斐郡の三師会の先生方は学校教育にも大変協力的な方が多く、今回の会でのご指導を含め、日頃から適切なお指導をいただいております。今後も連絡を取り合い、三師会と学校との連携を密にして指導にあたっていきたいと思います。」とあったように、従来から郡三師会と学校が連携した取組が揖斐郡では行われていた。

しかし、その取組が各学校ごとの取組となっており、それぞれの学校でなされている実践が郡の中で共有されておらず、各校から郡内へ向けての発信が十分なされていなかった。

そうした現実を見た時に今回の第61回岐阜県学校保健研究大会が揖斐郡で行われるのを契機に、揖斐郡学校保健会として、「ポストコロナ時代を生き抜く力をもった児童の育成」を行う実践や「三師会と学校が連携した優れた実践」を把握し、各学校の優れた取組を郡全体で共有できる体制づくりの必要性を感じた。

(2) 各校の三師会と学校が連携した取組を把握するための調査の実施

①各校への三師会と学校が連携した授業や教育活動の調査依頼

令和4年6月6日の「揖学保第21号:各校の三師会と学校が連携した授業や教育活動について(情報提供のお願い)」で各校の実践を報告するよう依頼した。

各校でも学校医の先生方、学校歯科医の先生方、学校薬剤師の先生方や学校保健にかかわる関係諸機関と連携した取組が行なわれておることと存じます。

つきましては、各校で行われている「郡三師会と学校が連携した健康教育、学校環境衛生教育、学校保健に関する授業や教育活動」についてご報告していただけませんかでしょうか。

ご報告いただきました内容については、郡の学校保健会でまとめ、揖斐郡の特色ある教育活動として、11月27日の岐阜県学校保健研究大会で全県下に向けて発表するとともに、「学校保健会だより」や揖斐郡学校保健会のホームページを通じて、揖斐郡内に発信し、揖斐郡の学校保健の取組の向上につなげたいと考えております。

②各校からの調査回答のまとめと郡学校保健会での共通理解

揖斐郡学校保健会からの働きかけを受けて、小学校18校・中学校6校のすべての学校から「郡三師会と学校が連携した健康教育、学校環境衛生教育、学校保健に関する授業や教育活動」についての実践が報告され、郡内の実践の一覧表を事務局が作成して郡学校保健会理事会に提案し、共通理解を図った。

郡内で行われている郡三師会と学校が連携した学校保健活動の実践例

A小 手洗い指導 学校医

手を介してウイルスや菌が体内に入り、病気を発症すること、それを防ぐために手洗いを正しく行うことの大切さを理解し、行動ができることをねらいとして、手洗い実験を行った。



郡内の多くの小中学校

学校保健会から、揖斐郡医師会が高齢者施設向けに作成した「新型コロナウイルスに関する基礎知識」、「ワクチンに関する知識」のYouTube配信があり、教員が視聴した。

B小 歯科検診と親子参加型歯科指導 学校歯科医

学校歯科医に事前に児童や保護者からアンケートをもとに、Q&A方式でパワーポイントを作成していただき、親子参加型の歯科指導を実施した。

C中 防煙教室(1年生対象) 薬剤師(各学級1名の薬剤師が指導)・医師
たばこの有害性や危険性、依存性のプレゼンで講義を聞く。その後、たばこを誘われた際の断り方を生徒個人で考える。
コロナ禍では、班の代表者が班で考えた断り方を、学級の前に立ち、ロールプレイで発表。



※民生委員や人権擁護委員、保健師、介護福祉士、町教育委員会、PTAなどさまざまな立場の方がボランティア講師として各学級に6名ほど参加することもあった。

D中 新型コロナウイルス感染症対策 学校医・学校薬剤師

学校医との相談・報告を密にし、専門的な指導を学校の新型コロナウイルス感染症対策や生徒による委員会活動に生かすようにしている。また学校薬剤師から新型コロナウイルス感染症対策における消毒方法、手指消毒や薬品についての指導とコロナ禍での熱中症対策の指導を受け、部活動の部長を中心に生徒が自分で考えて、新型コロナウイルス感染症対策と熱中症対策ができる力をつけるようにしている。

③郡内の学校保健の取組を共有できる体制づくり

学校保健会が各校で行われている三師会と学校が連携した保健教育や学校保健に関する活動の調査を行い、実践の目的、取組、価値を明確にした上で優れた実践を紹介し、郡内で共有できる体制づくりを行った。

(i) 「郡学校保健会だより」による郡内の学校保健の取組の共有化の働きかけ

郡内各小中学校の「三師会と学校が連携した健康づくりの実践」を郡の共通の財産として活用できるよう郡三師会の先生方、郡内の各小中学校、各町の教育委員会に「揖斐郡学校保健会だより第2号」を配付した。

(ii) 「郡学校保健会ホームページ」による郡内の学校保健の取組の共有化の働きかけ

揖斐郡学校保健会では、学校保健会の取組や各校で行われている郡三師会と連携した取組や授業による成果を、実践に役立てるために令和4年度4月に、「揖斐郡学校保健会のホームページ」を開設し、郡学校保健会だよりと併せて、「三師会と学校が連携した体制づくり」にホームページを活用している。またホームページでは揖斐郡学校保健会の取組を広く県内に発信して行くことも目的にしているため、今後はホームページを通じて、「他地区の学校保健会と連携した取組」にもつなげていきたいと考えている。

(iii) 揖斐郡学校保健会ホームページの「学校保健ライブラリー」による実践のデータベース化

揖斐郡学校保健会では「郡三師会と学校が連携した学校保健に関する教育活動」の実践を「学校保健ライブラリー」としてデータベース化し、郡内の教職員が日々の実践や学校保健年間計画の作成の際などに各校で活用できるようにする取組を進めている。

令和4年度は各校で行われている「三師会と学校が連携した実践」を調査し、郡内の一覧を作成して他校で行われている実践を知ることができるようにした。今後は各校で行われた保健指導の実践を経年で蓄積し、データベースの量を増やすとともに、実践のねらいや内容、活動の工夫や成果を明確にして、質の高いものにしていきたいと考えている。

6 成果と課題

以上、述べてきた「郡三師会と学校が連携にしたポストコロナ時代を生き抜く力をもった児童生徒の育成」をめざした健康づくりの充実を図る郡学校保健会としての「マネジメント」や「支援」により次の成果と課題が見られた。今後はこうした成果と課題を踏まえ更なる揖斐郡の学校保健の取組の充実を図っていきたい。

(1) 成果

- 「揖斐郡の学校保健の全体構想」の作成により、郡三師会と学校、学校間の連携が強化され、計画的に、ポストコロナを生き抜くための「5つの力」（「必要な情報を収集する力」・「収集した情報を適切に理解する力」・「収集した情報を自他のために効果的に活用しようとする意欲」・「収集した情報を効果的に活用し、自分の命や健康を進んで守る力」・「収集した情報を身近な人々に発信し、健康の保持増進に寄与する力」）を育てることができるようになった。
- 「主体的な健康づくり」を目指した集団・個別指導・委員会活動の充実により、主体的に自らの健康を守り、周りの人々の健康にも働きかける児童・生徒が育ってきている。
- 郡が一体となった学校保健についてのマネジメントや支援・情報の共有化により、郡全体でポストコロナを生き抜くための5つの力が育ってきている。

(1) 課題と今後の取組

- 各学校の健康安全全体計画や保健指導年間計画の中に「三師会との更なる連携」や「ポストコロナを生き抜く力の育成」の視点が位置づけられるよう、揖斐郡学校保健会として郡の学校保健指導全体計画を示していく。
- 分掌で学校保健に携わる教職員が年度ごとにより変わり、揖斐郡学校保健会理事のメンバーも年度ごとに変わるので、研究や実践の成果が継続していくように、郡としての学校保健全体計画の作成や郡内で行われる実践のデータベース化を進めていく。
- ポストコロナの状況が今後変化していくので、令和5年度以降も状況を見極めながら、郡三師会と学校が連携して「ポストコロナの時代を生き抜く力」を育てる指導を継続していく。